

茨城大学学報

第292号

平成22年8月～平成22年9月



秋の阿見キャンパス風景

INDEX

- ◆ 仁済大学校(韓国)の訪日団が来学
- ◆ 「水戸黄門まつり」に5年連続参加
- ◆ 工学部「ものづくり体験・理科工作教室」開催
- ◆ 新役員等就任披露について～第2回定例記者会見(平成22年9月9日)を行いました～
- ◆ ボゴール農科大学(インドネシア)における熱帯農業フィールド実習の出発式を挙
- ◆ 平成22年度茨城大学大学院農学研究科修士課程「環境共生農学」コース学位授与式を挙
- ◆ 平成22年度茨城大学大学院理工学研究科博士後期課程学位記授与式を挙

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ 仁済大学校（韓国）の訪日団が来学

8月4日（水）から7日（土）までの4日間、仁済大学校（韓国）の訪問団（幹部職員7名）が、水戸キャンパスを来訪しました。

本学と仁済大学校の間では、平成17年に国際交流協定を締結し、学生の交換留学や、過去3回にわたり教員によるシンポジウムを開催するとともに、教職員の交流を実施しており、昨年は、本学の職員が仁済大学校を訪問しました。

今回の訪問では、1日目に、池田幸雄学長を表敬した後、水戸キャンパスの図書館、学生寮などの施設を見学しました。

翌日以降は、本学の研究活動に関連するJ-PARCなどを見学するとともに、「学生寮の運営」「学生の厚生システム」「図書館システム」「職員の人事考課システム」の4つのテーマについて、職員との意見交換会、学長主催の歓迎レセプションが実施され、今後の相互交流の発展に向けた貴重な機会となりました。



仁済大学校の訪問団との記念撮影

◆ 「水戸黄門まつり」に5年連続参加



左：山崎学務部長、右：山本理事

本学は、去る8月7日（土）に水戸市で開催された「第50回記念水戸黄門まつり・市民カーニバル in MITO」に、「夏の思い出に みんなで踊ろう」のキャッチフレーズのもと参加しました。

当初は、全国的な猛暑で「熱中症」等が心配されましたが、心地よい風が吹く中、全員無事踊り通すことができました。

ました。

参加チームは全44チーム（4千人以上）にのぼり、本学からは、山本恵一理事を先頭に鈴木武総務部長、山崎時男学務部長、天野一男地域連携推進本部長はじめ、教職員と学生の総勢89名が参加しました。本学OB職員である草薙一橋大学総務課長も応援に駆けつけ、一緒に踊り通しました。

職員の家族の飛び入り参加や卒業生も含めると、昨年に引き続き100名を超える参加となり、カーニバル中、大学で作成した「うちわ」を沿道の見物客に配って歩くなど、大学の地域へのアピールも十分達成できました。

カーニバル終了後に開催した懇親会では、日頃交流の少ない学生と教職員が一丸となって踊り続けた充実感の中、「来年も全員で参加すること」「他の教職員・学生も誘って今年以上の成果を期すこと」を誓い合いました。



カーニバルに参加する茨城大学チーム

◆ 工学部「ものづくり体験・理科工作教室」開催

8月27日（金）、工学部において、ものづくり体験・理科工作教室が小学生（4～6年生）を対象に開催され、43名が参加しました。毎年開催してきたこの教室も今年で5回目となり、日本機械学会関東支部茨城ブロックとの共催及び日立市教育委員会の後援により開催しました。内容は、「電子ピアノ」、「光であそぼう」、「ペーパーウェイトを作ろう」という3テーマの教室を企画しました。

開会式で、栗原和美副工学部長の挨拶があり、工学部と地域の連携を推進していく一環として開催された旨が紹介されました。

続いて、参加者はテーマごとに分かれ、「電子ピアノ」、「光であそぼう」の理科教室では、作り方の説明を熱心に聞きながら、初めて使うハンダゴテを技術部職員からの手助けを受け、基盤にハンダ付けを行っていました。

また、「ペーパーウェイトを作ろう」の教室では、作り方の説明の後で、参加者は職員からの手助けを受けながら、普段見たことがない工作機械を操作して部品の加工を熱心に行っていました。

参加した生徒達は、完成した作品を前に満足そうな笑顔を見せていました。帰り際には来年も参加したいという声も聞かれ、地域との連携の推進に有意義な体験・教室となりました。



ものづくり体験の様子



参加者との記念撮影

◆ 新役員等就任披露について
～第2回定例記者会見（平成22年9月9日）を行いました～

9月1日付で就任した理事・副学長などの役員人事を発表いたしました。

会見の中で、池田幸雄学長は「教育に関する様々な問題を真摯にとらえ、21世紀型教育を積極的に取り入れ、有為な人材を育成すべく、教育改革に精通した人材を迎えた」と述べました。

また、高校生に行った民間のアンケートによる大学のイメージランキングにおいて、茨城大学が「のんびり」というイメージ項目で、関東地区の大学で1位になったことを受け、「倫理観の育成、大学院教育、地域貢献を重点的に行う一方で、このイメージを良いほうにとらえ、じっくりと教育ができる大学を目指したい」と語りました。

なお、新役員、副学長に続き、8月1日付で再任された人文学部長、9月1日付で就任した教育、工学部の学部長も紹介され抱負を述べました。

新役員、副学長、学部長は以下のとおり
 （再任者を含む）



理事、副学長

職 名	氏 名
理事・副学長(教育担当)	田 代 尚 弘
理事・副学長(学術担当)	神 永 文 人
理事・学長補佐(総務・財務担当)	山 本 惠 一
理事(事業担当)	影 山 俊 男
副学長(大学改革等担当)	田 中 重 博

学部長、研究科長

職 名	氏 名
人文学部長 大学院人文科学研究科長	佐々木 寛 司
教育学部長 大学院教育学研究科長	尾 崎 久 記
工学部長 大学院理工学研究科長	友 田 陽

◆ ボゴール農科大学（インドネシア）における 熱帯農業フィールド実習の出発式を挙

本学では、ボゴール農科大学（インドネシア）において「熱帯農業フィールド実習」（9月21日（火）から7日間）を実施するにあたり、9月16日（木）に出発式を行いました。

本学とボゴール農科大学は、平成21年に国際交流協定を締結しました。今回は、大学院生24名が参加し、アジアの農業について課題を発見するなど、その解決策を自立的に考える人材を育成することを目指した「熱帯農業フィールド実習」、「グループ課題演習」を行うこととなっています。

出発式で、池田幸雄学長は、「学業以外にも、現地の人と交流し、見本になるよう行動をしてほしい。また、現地の生活様式や文化を体験することも重要なことである」と挨拶しました。

その後、実習担当教員から熱帯農業フィールド実習の概要説明、学生代表による挨拶・決意表明に続き、大学安全衛生担当職員からは現地の感染症の現況や対策についての説明等が行われ、参加学生らは熱心に耳を傾けていました。

熱帯農業フィールド実習に参加する学生にとって、出発式は決意を新たにする貴重な機会となりました。



出発式の様子

◆ 平成22年度茨城大学大学院農学研究科修士課程
「環境共生農学」コース学位授与式を挙

平成22年9月28日(火)、本部事務局第3会議室において大学院農学研究科修士課程「環境共生農学」コースの学位授与式を挙

行し、修士課程4名に学位記が授与されました。保護者並びに指導教員が見守る中、修了生らは池田幸雄学長から学位記を授与されました。池田学長は告辞にて、これまでの修了生たちの努力した結果をねぎらうとともに、これからの活躍を期待している旨を英語で述べました。最後に、太田農学研究科長から祝辞があり、修了生の門出を祝いました。



修了生と役員等との記念撮影

◆ 平成22年度茨城大学大学院理工学研究科博士後期課程 学位記授与式を挙

平成22年9月29日(水)、本部事務局第3会議室において大学院理工学研究科博士後期課程の学位記授与式を挙し、課程博士2名に学位記が授与されました。

列席者が見守る中、修了生に対して、池田幸雄学長から学位記が授与され、池田学長からは、学位取得に至るまでの修了生らの努力を賞賛するとともに、急速に変化する現代社会において、本学で培った知識・経験を生かして、活躍されることを期待しているとの告辞が述べられました。続いて、友田理工学研究科長からも祝辞が述べられました。

学位記授与式終了後に開催された修了生と指導教員をはじめとした本学式典列席者との懇談会では、学長始め役員から各々激励の言葉が述べられ、門出を祝いました。



修了生と役員等との記念撮影